

医見拝聴

「医をめぐる不信と信頼」

共同通信社千葉支局

植松

宏行

私は今、1カ月に1度、通院している。持病の経過観察のためだ。

通い始めたのは今から4年前。そのときは医療費は2割負担だったと思う。2割負担が3割負担になったとき、「こんなにかかるのか」と驚いた。つぎは介護保険料が徴収されるようになり・・・将来は5割負担か？ 今後も負担が軽くなることはなさそうだが、仕方がない。

私は生まれてから今までに1度しか献血したことがない。

献血をしたのは高校生の時。友人の父親ががんになり、手術用の血液が不足したのだ。1回400cc。そのとき1度だけだ。そのときは友人の力になれたのがうれしかった。

今、私は見知らぬ人のために献血する気持ちはないが、今後も献血をしないというわけではない。私の知人が私の血液をもとめているなら、喜んで献血に応じるだろう。

私の医療制度に対する不信がなかなか消えない。「栄養剤がわりに輸血していた」という噂、エイズや

ウイルス性肝炎などの血液製剤をめぐるトラブルでの対応、医療事故での病院側の説明不足など見れば見るほど不信感が煽られる。もつともメス「ミ」の取り上げ方にも問題があるかもしれないが。

少子高齢化が急速に進み、まもなく人口減少時代が到来する。患者は増え続け、医師の負担も増え続けるだろうが、そのとき医師や医師会は何をできるのか。それとも何もできないのか。はつきりしているのは、次第に医者にかかりにくくなるということだろう。

私の主治医への信頼感は極めて大きい。彼は私よりかなり若い私の病状について毎回きちんと分析、丁寧に説明し、こちらの疑問にも適切に答えてくれる。主治医が治療方針を説明し、私も一定の知識をもち、一人で方針を決めている。

私の父が生死をさまよった昨年、迅速な対応で命を救っていただいた若い医師は、その後の治療過程もきちんと説明してくれ信頼できた。取材を通じて知り合った医師のほとんどは信頼できる医師だった。

信頼できる医師はこんなに多いのに。なぜ不信感が消えないんだろう。

千葉県医師会健康宣言

みんなが高めるいのちの価値

千葉県医師会は、こんな活動を推進しています。

地域連携

地域に開かれた医師会として、患者さんの団体やボランティア団体、行政との連携をさらに深めます。

情報公開

患者さんと医師との一体感を強める情報公開につとめ、IT時代にふさわしい医師会をめざします。

新世紀の医療へ

高齢化社会に対応して新しい健康価値観の創出、環境や生態系との関わりを考慮した医療を追求します。